

みのEDO

発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会
TEL 0572-43-2141
発信：多治見市・笠原町東京情報局
TEL 03-5225-6863

特集 秋のタイルフェアから 1

リフォーム&インテリア 2013



キッチン空間におけるタイル提案



横田満康建築研究所によるイケア流快適キッチン空間の提案



リブラン ＊ハンディストーン。のキッチン



モザイクタイルとガラスブロックのキッチン

9月27日（金）～29日（日）の3日間、東京ビッグサイト西ホールで「すてきな住まいづくりを体感する3日間」と題して「リフォーム&インテリア 2013」（主催：日本経済新聞社、公益社団法人 インテリア産業協会）が開催された。「住まいと暮らしをスマートに」をテーマに、リフォーム後の住空間やインテリアを体感できるシーン展示や、住宅設備、建材、リフォーム会社などを比較検討できる企業展示と企画展示な 115 社 337 小間の展示規

模ながらバラエティに富んだ構成が好評で、約3万名が来場して活気に溢れた。

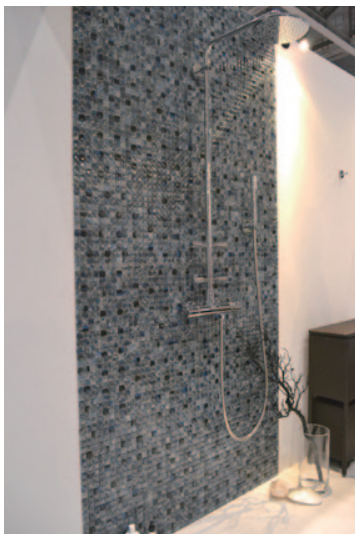
なかでも最も注目を浴びた企画展示の一つ「イケア流の快適キッチンリフォーム」（㈱横田満康建築研究所＋イケア・ジャパン㈱共同企画）は、美しく機能的な IKEA キッチンで実現する快適リフォームの実例が、遊び心に富んだアイディア満載のキッチン空間として提案され、タイルキッチンがなかなか痛快だった。



竹村工業の内装用仕上材「レノウッド」。



「ハマキャスト」が提案する壁面耐震補強材



「スマート」コーナーの水回りのモザイク展示



“DEESAWAT” 木毛セメント板



ARTE のガラスインテリア材

可能性を広げるタイルキッチン

オーダーキッチンなどによるキッチンリフォームの最新スタイルの提案と、美しく機能的な IKEA キッチンで実現する快適リフォームの紹介——「イケア流の快適キッチンリフォーム」では、「カフェスタイルキッチン」「ナチュラルキッチン」「スタイリッシュキッチン」などのテーマで特殊なプリントを施されたガラス張りのキッチンや、タイル張りのキッチン、タイルキッチンバックがふんだんに展示され大きな話題を集めた。

タイルは、美濃のタイル産地から長江陶業が全面的に協力してタイルの魅力満載のキッチン空間が演出されて圧巻だった。モザイクタイルのオリジナルミックスや焼物の魅力をアピールするタイルなどにより、キッチン空間を彩る個性的な提案を行ない、新しい空間装飾として焼き物文化によるインテリアの可能性に挑戦する意欲と提案力が窺われた。

隣接するキッチンリフォームのブースにも、オーダーキッチンを提供するリブランが「ハンディストーン」と呼ばれる砂岩をFRPで裏張りして切り出した石材パネ

ルを張り込んだキッチンを展示、意表を突いた提案で来場者にアピールしていた。

タイル関連の展示から

そのほかタイル関連では、トレンドシーン「スマート」のコーナーにおける水回りのタイルの展示や、50年対応の長寿命外装仕上材（人造石材）をすすめる「ハマキャスト」が提案するタイル外装などの壁面耐震補強材「ネットアンカー」などにも来場者の関心の高さが窺えた。

タイル様素材としては、木毛セメント板メーカー・竹村工業の開発した内装用仕上材「レノウッド」（内装用細木繊維化粧板）、の独特の素材感・意匠感に鮮度があつた。木毛セメント板というのは、国産ヒノキの間伐材と水とセメントでつくったエコ素材であるとうたっている。ほかに“DEESAWAT”というブランドの本物の木を組み合わせたモザイク床材の展示や、仕上材として提案されていたオーダーミラー・ARTE のガラスインテリア材などの意匠感もたいへん興味深かった。

ジャパンホーム&ビルディングショー2013



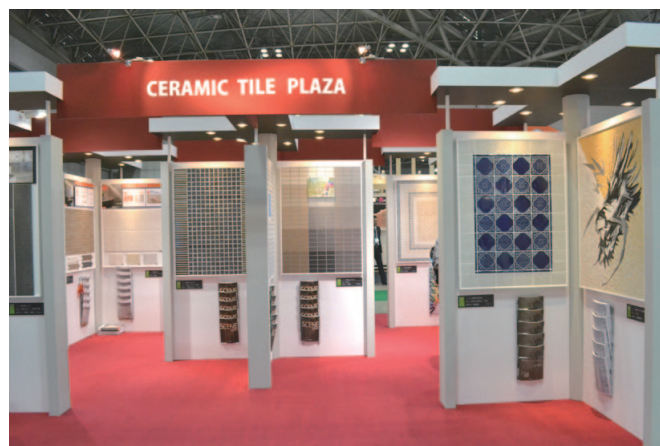
セラミックタイルプラザ全景



セラミックタイルプラザのイベントコーナー



Q-CAT認定製品の住宅外装タイル



セラミックタイルプラザの入口

10月23日(水)から25日(金)まで東京ビッグサイト・東ホールにおいて、住まいに関する建材・部材・設備・サービスの専門展示会「第35回 Japan Home and Building Show(ジャパンホーム&ビルディングショー2013)」(㈱日本能率協会主催)が開催された。同展は、「3つの展示会」(ジャパンホームショー/スマートハウス展/ふるさと建材・家具見本市)により構成され、今年も昨年に引き続き、インテリア関連の専門展示会「インテリアトレンドショー JAPANTEX」と合同開催され、合せて国内外15カ国・地域から460社(788小間)の出展のもと、来場者数は約4万4千余。

展示では、住宅リフォーム、スマートハウス・エコハウス関連の最新動向、高齢者や子育て世代などライフスタイルに応じた住まい方提案などに力がこもっていた。

ここでは全国タイル工業組合「セラミックタイルプラザ」を中心に特徴的なタイルシーンをご紹介します。

セラミックタイルプラザ

国内のタイルメーカーで構成される全国タイル工業組合の出展ブース「セラミックタイルプラザ」では、組合員各社の新作タイルが勢ぞろい、各メーカーが内外装にわたってデザイン性・意匠性の高いタイル新製品や機能性(調湿・防汚等)にすぐれたタイルの展示をするとともに、「外装タイルと有機系接着剤の組合せ品質認定制度(Q-CAT: Quality accreditation system for Combination of organic Adhesive and exterior Tile)」のパネル展示や、タイルを使ったマジックショーも開催するなど、話題を呼んだ。



TNコーポレーションのタイル展示



TOTOのハイドロセラ・ウォールの展示



拓殖大学デザイン学科の仕上材の展示



エキゾチックな「絨毯ギャラリー」。

注目したブースから

ジャパンホームショー

そのほかのブースでタイル展示として注目したのは、TNコーポレーションが装飾材としてのデザイン性に特化したユニークなタイルの展示を行ない、量産タイルメーカーにはない特徴的で魅力あるタイルの展示および特注によるオリジナルタイル作成の案内などに熱がこもっていた。

TOTOは、光触媒技術ハイドロテクトを応用した内装用大型防汚陶板「ハイドロセラ」を中心に高級ホテル内装をイメージしたような印象的な水まわりの空間展示を行ない、「抗菌・抗ウイルス」「清掃性のよさ」「堅牢性」などの特長をわかりやすく紹介していた。特に最新のデジタルプリント技術による、木目調やエイジング調など

をミックスしたタイルプリントの再現性は画期的で注目を集めた。一方で中国タイルの勢いも見せつけられた。

インテリアトレンドショー

インテリアトレンドショー JAPANTEXの会場では、テーマ展示でインテリアの環境機能タイルが目についたほか、拓殖大学デザイン学科の環境と素材を考える展示で木の仕上材やエコバッグの展示に今の若者たちの関心の方向性が窺えた。南ペルシャの遊牧民の女性が、手紡ぎのウールを使用し、感性豊かに手で織りあげた絨毯を展示した「絨毯ギャラリー」では、見ているだけで癒されてホッと不思議な力を持つといわれる、ゾランヴァリギャッベの絨毯にため息をついた。

IFFT/ インテリア ライフスタイル リビング



長江陶業 出展ブース



印象的な長江陶業 展示



マスターズクラフト 展示ブース

11月6日(水)～8日(金)の3日間、東京ビッグサイト東ホールにて「IFFT/ インテリア ライフスタイル リビング」(主催:一般社団法人日本家具産業振興会/メサゴ・メッセフランクフルト株)が開催され、12カ国・329社が集い、最新の製品を披露した。

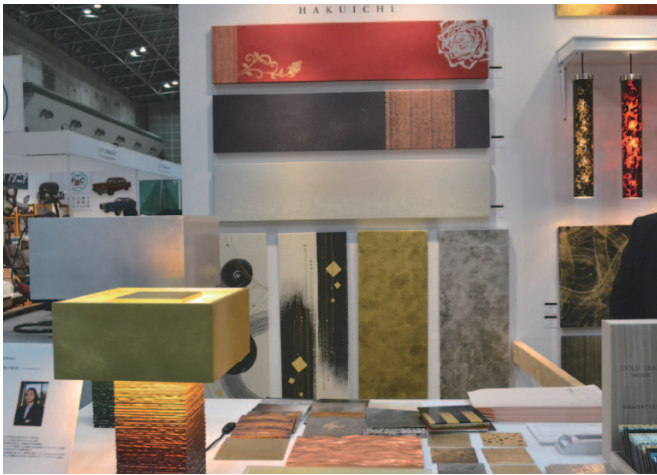
本フェアはIFFT(東京国際家具見本市)に「インテリア ライフスタイル」のコンセプトが加わり、IFFT/ インテリア ライフスタイルリビングとして2008年よりスタート。東京から世界へ向けて「ライフスタイルを提案する」インテリア・デザイン市場のための国際見本市として開催されている。

会場には3日間で19,166人が来場。商談を目的としたビジネス直結型の商業見本市として、バイヤー、ショッ

プオーナーからインテリアコーディネーター、建築設計事務所などが多く訪れていた。セラミックタイルを中心に、新しいトレンドのタイル様素材を紹介する。

素材のちから 長江陶業

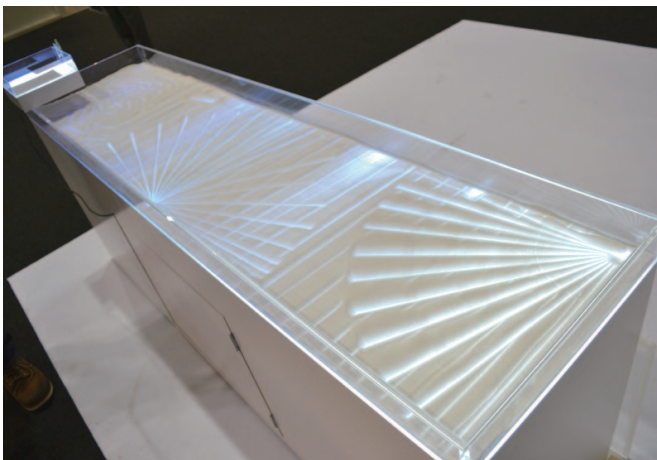
会場は`NEXT、`TALENTS、`MOVEMENT、`JAPAN STYLE、など9つのテーマ別にゾーニングされており、なかでも若手建築家がプロデュースして注目を集めた特別企画「Creative Resource 素材と造作のちから」にはインテリア素材や関連パーツを扱う会社が集結したが、このゾーンに笠原から長江陶業が製品ブランド「NEO」の最新商品を中心に出席し、タイルの素材としての存在感を見せつけた。



金沢伝統工芸・箔一の展示



高岡銅器からモメンタムファクトリー・orii の展示



SOU DESIGN (西塚孝幸)「あそぶ」をテーマにした作品



聖和セラミックスの展示

「タイルはどこで売っているかわからない、施工はどうするの？高いんじゃないの？」というイメージを払拭し、タイルは昔から身近にあった愛着あふれる素材、その懐かしい思い出を蘇らせたい」と、虎澤社長はデザイナー、設計者に訴求する意欲を見せていた。

同じゾーンには、金沢の伝統工芸・金箔によるデザイン提案をすすめる箔一の伝統的な技法と最新の技術に新たな金箔アートパネルの展示や、高岡銅器からモメンタムファクトリー・orii が地場産業の伝統的な発色技術を生かしたエイジング調の銅・真鍮圧延板（アートパネル）出展するなど、これからの仕上材の新たな可能性を感じさせていた。

新鮮味あふれる素材

また、聖和セラミックスが「特定非営利活動法人メイド・イン・ジャパン・プロジェクト NIPPONSAN」の一員

として出展、笠原のモザイク新商品 BIENE、BROOKLYN による意表を突いたタイルデザインで来場者を引き付けていた。

新進ブランドを集めた `NEXT、のゾーンでは、昨年「かわいい箸置き」で注目した工房・マスターズクラフトが今年も瑞浪市産業振興販路開拓委員会から出展し、自社工房で制作のレンジタイル（150 角）と新製品の同 300 角を展示し、合せて日本ひとつの時代の気分を表した‘心ときめく’手作り陶磁器製品のアピールが興味深かった。

若いデザイナーのコーナーである `TALENTS、のゾーンでは、SOU DESIGN（西塚孝幸）のライティングされたアクリル天板の上で樹脂粒子を用いて自由にアートペインティングを楽しむ「あそぶ」をテーマにした出品は、これを半透明の陶磁器粒子でやったらどうなるんだろうと、興味津々のアイディアだった。